

教職支援室便り（1月号）

令和8年 1月 9日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

「教職特別講座の思い出」卒業生からの寄稿

10月号から、「教職特別講座の思い出」をテーマに、卒業生からの寄稿文を掲載しています。卒業生の皆さんが今、どのように「教職特別講座」を受け止めているのかなど、率直な気持ちや考えを知ることができればと思っています。今回は、宮崎県宮崎市立住吉小学校の大坪千里さんと、長崎県雲仙市立国見中学校の池田つばささんの寄稿文です。お忙しい中、本当にありがとうございました。

令和5年3月卒業

宮崎県宮崎市立住吉小学校 大坪千里さん

私は、小学校教諭3年目になりました。あっという間に3年目を迎えました。もちろん大変なこともあります、日々楽しく子どもたちと過ごしています。こんな日々を送れているのも教職特別講座のおかげだと思っています。

教職特別講座を受けていた頃を振り返ると、とても懐かしく感じます。同じ志をもった仲間と切磋琢磨しながら筆記試験の勉強や面接、模擬授業、グループワークの演習をした日々は、私にとって宝物のような時間でした。私の中で、今までで1番一生懸命勉強した時間だったと思います。曾我先生や仲間がいたから本気で、どんな時も前向きに学びに向かうことができたと思います。

また、私には働き始めてさらに実感するようになったことがあります。それは、教職特別講座は教員採用試験に合格するための学びではなく、教員として働く上で大事な力を培うための学びだったということです。私は教員という仕事が好きで、もちろんやりがいも感じています。しかし、時には前向きになれなかったり、子どものこと、授業のこと、校務のことに悩んだりすることもあります。そんな時に、真っ先に思い出するのが教職特別講座です。ここでの学びが役に立つことも沢山あります。また、曾我先生が勇気づけてくださった言葉を思い出すと、前向きに頑張ろうという気持ちになれます。

当時、共に学んだ仲間とは、今でもたまに連絡を取り合います。離れた県で働いている友人もありますが、困った時には話を聞いてもらったり、悩みを相談し合ったり、教職特別講座で共に学んだ日々があるからこそ信頼して頼ることができます。そんな友人とはこれからもずっと仲良くしたいです。

曾我先生が宮崎公立大学にいらっしゃったから、教職特別講座があったからこそ、今の自分があると思います。本当にありがとうございました。これからも、宮崎の子どもたちのために頑張っていきたいと思っています。

令和7年3月卒業
長崎県雲仙市立国見中学校 池田つばささん

私は、令和6年度に教職特別講座を受講し、現在は地元長崎県の公立中学校で1年目の教員生活を送っています。私が教職特別講座を受講し始めた頃は、教員になりたいという気持ちと、空港のグランドスタッフになりたいという気持ちが半分ずつでした。そのため、第1回の講座で採用試験までの間に学ばなければならない大量の課題を目にした時、諦めることも頭に浮かびました。しかし、教職特別講座を受けていくうちに、教師として頑張りたいという気持ちが徐々に高まりました。それは、曾我先生の教職に対する熱意や、同じく講座に参加していた友人の教職に対する熱意と希望を、身に染みて感じたからだと思います。現在は、地元長崎県の中学校で1年生の担任を務めています。教職特別講座を受けていく中で、教員の多忙さを想像してはいましたが、想像以上の大変さに諦めたくなくなることも既に何度もありました。しかし、一緒に講座を受けた友人に連絡を取りお互いに励まし合ったり、生徒たちに励まされたりと沢山の人の支えられて今は諦めることよりも、いかに教師としてのスキルを上げるかに夢中になっています。教職特別講座を通して得た知識は、現場のどんな場面においても活かされています。講座を通して出会った仲間は、今でもいなくては困る大切な存在であり、この出会いが私の人生においてどれだけ貴重なものであったかを実感しています。そして何より、教職特別講座を開講し、私を教職の道へ導き、大切な仲間と出会わせてくださった曾我先生には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

担当者として

昨年10月から、「教職特別講座の思い出」をテーマに、卒業生からの寄稿文を掲載しています。卒業生の皆さんが今、どのように「教職特別講座」を受け止めているのかなど、率直な気持ちや考えを知ることができ、担当者としても、現在「教職特別講座」を受講している学生の皆さんへの支援の意欲が高まります。

卒業生の皆さんの「教職特別講座」への取組を振り返ってみると、教職教養に関する知識を習得、活用、応用して、教育問題に対する自己の考えについて、十分に表現できる力を身に付けていったと実感します。真摯に、誠実に、真正面から「教職特別講座」の演習に向き合い、教職への思いを強めながら取り組んでいた姿を思い出します。

また、卒業生の寄稿文の中に見られる共通したことの一つに、学校現場に出てから活かされていることがとても多く、日々それを実感しているということがあります。「教職特別講座」は、採用試験合格のためだけにあるのではなく、学生の皆さん一人一人が、教員になりたい自分を見つめ続ける学びであり、教員としての資質・能力（生きて働く資質・能力）が培われていったと思います。

教育界を取り巻く多くの問題を踏まえると、今後は特に大学教育における人材の育成が、大きな課題であると言えます。

教員採用選考試験における英語力の重要性

現在、教員採用選考試験においては、小学校教員の採用者数が全国的に多い傾向がある中で九州各県の中学校英語、高等学校英語の合格者数については、一律に増加傾向とは言えない状況があります。受験者数の減少はあるものの、大学生の皆さんにとっては、学校現場で勤務している、臨時的任用講師等の先生方と競合する試験であることから、狭き門であると考えます。

本学では、教員採用選考試験に向けて「教職特別講座」を行っていますが、学生の皆さんの自助努力も不可欠であり、英語力を磨くこと、英語力を向上させることは、合格への必須要件です。TOEIC730点以上、英語検定試験準1級以上等の資格取得に向けて、積極的に英語力向上に取り組んでほしいと思います。

<教員採用選考試験英語科合格者数（九州各県）>

採用年度		令和8年度	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
宮崎	中	12	8	7	11	11	10
	高	6	3	2	6	7	2
沖縄	中	24	23	26	15	12	14
	高	13	8	8	6	4	7
鹿児島	中	23	26	24	25	20	20
	高	5	4	5	4	3	3
大分	中	20	15	10	18	20	20
	高	6	4	4	4	3	10
熊本	中	11	14	10	15	13	11
	高	12	14	10	7	3	2
長崎	中	22	16	15	16	11	14
	高	18	12	19	10	9	8
佐賀	中	9	16	14	13	20	17
	高	6	6	3	3	5	5
福岡	中	40	60	58	66	52	49
	高	35	30	21	18	16	18

3月までの「教職特別講座」の計画

日曜	演習内容等
1月13日（火）	地方公務員法 討論「服務規律の遵守」
1月20日（火）	教育公務員特例法
1月26日（月）～2月15日（日）	定期試験期間、集中講義期間、卒論発表期間
2月16日（月）	教育公務員特例法 討論「学び続ける力（姿勢）とは」
2月19日（木）	受験自治体等に関するヒアリング
2月26日（木）	自己PR書等の作成演習（第一段階）
3月3日（火）	いじめ防止対策推進法等
3月4日（水）	討論「いじめ問題への対応」
3月10日（火）	不登校問題
3月16日（月）	討論「不登校問題への対応」
3月18日（水）	東京アカデミー模擬試験

道徳の教科化に思う！（シリーズ104）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、7月号からスタートしたテーマ「生きる力をはぐくむ道徳授業の創造～発問や教材（資料）選択を児童にゆだねる道徳の時間の指導の在り方～」の7として、「実践編その2：道徳（道徳科）学習指導案（第1時学習指導過程、第2時学習指導過程）」について掲載します。

<第1時学習指導過程：30分>

1 主題名「目標をもって」

2 本時のねらい

- 自分の問題意識や興味、関心に合う教材を選択することができる。
- これまでの自分の経験を振り返りながら、教材中の主人公（登場人物）のもつ「生命尊重」に対する価値観に関心をもつことができる。

3 学習指導過程

段階	児童の学習活動及び内容	教師の支援	伸ばしたい能力	支援への手立て
ステップ1	<p>1 命の大切さについて考えた経験について話し合う。</p> <p>2 本時の学習について話し合う。</p> <p>生命の大切さについて学習するために手がかりにしたい教材を選ぼう。</p>	<p>・ 命の大切さについて考えた経験を想起させ、ワークシートに記入させる。</p> <p>・ 3単位時間で学習していくことや自力学習も取り入れることなどを話し、児童の意欲を喚起したい。</p> <p>・ 本時が、手がかりにしたい教材を選択する時間であることを主体的に意識させる。</p>	<p>☆命の大切さについて考えその経験を表現することができる。</p>	<p>ワークシート1「命の大切さを考えた経験について」</p>
ステップ2	<p>3 複数の教材を読み、自分の手がかりにしたい教材を選択する。</p> <p>○ 4つの教材からの選択</p> <p>○ ワークシートに記入</p> <p>4 教材を選択したわけや感想をまとめる。</p> <p>○ ワークシートに記入</p>	<p>・ 4つの教材を提示し、自分で学習したいものを選択させる。その際、次のことに留意する。</p> <p>*教材をじっくり読む時間を確保する。</p> <p>*主人公の生き方や自分の生き方（考え方）をよりどころとして選択するよう助言する。</p> <p>*選択したわけを明確にしておくため、ワークシートに記入させる。</p> <p>*時間が余った児童には、主人公の道徳的行為に対する感想を考えておくよう助言する。</p>	<p>☆教材を読み、主人公の生き方について考えることができる。</p> <p>☆主人公の生き方などから、自分で学習したい教材を選ぶことができる。</p> <p>☆選んだわけについて考え、学習したい気持ちを表現することができる。</p>	<p>ワークシート2「なぜ、その教材を選択したかについて」</p>

ステップ3	5 次時の学習について話し合う。	・次時は、各自で教材中の主人公の考え方や行動の仕方について、整理することをおさえる。		
-------	------------------	--	--	--

<第2時学習指導過程：45分>

1 主題名「命の尊さ」

2 本時のねらい

- ワークシートをもとに、選んだ教材について主人公の考え方や行動の仕方について整理することができる。
- 状況、場面、相手の立場、人間関係などを総合して、人を（命を）大切に思う行為が意識されていることについて深く考えることができる。

3 学習指導過程

段階	児童の学習活動及び内容	教師の支援	伸ばしたい能力	支援への手立て
ステップ1	1 本時学習について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">それぞれの教材の主人公の考え方や行動の仕方を整理し、それに対しての考えをまとめよう。</div>	・前時に学習の内容についてはふれているので、確認をする程度に済ませる。 ・ワークシートを活用し、自力学習を進めていくよう意欲づけを図る。		
ステップ2	2 各教材を読み主人公の考え方や道徳的行為についてまとめる。 ○そのときの状況 ○行為への迷い ○行為への動機 ○行為の中の考え方や気持ち ○行為の後の気持ち ○主人公の行為に対する自分の感じ方	・各教材ごとに次の内容のワークシートを用意する。 *そのときの状況と気持ちはどうであったか。 *行為を行おうとしたとき迷いはなかったのか。 *どんな気持ちからその行為を行ったのか。 *行為を行った後の気持ちはどうだったか。 ・静かに一人で考えさせたい。 ・時間を十分に確保する。 ・教師は適時児童一人一人に助言する。	☆教材の中に見られる主人公の考え方や行動の仕方について、視点ごとに考え整理することができる。 ☆主人公の考え方や行動の仕方について、自分なりの表現でまとめることができる。 ☆主人公の迷いについて自分なりの考えをもつことができる。	ワークシート1 「各教材ごとの主人公の考え方や行為について」

ステップ3	<p>3 これまでの生き方をもとに、主人公の生き方から考えたことをまとめる。</p> <p>○主人公の迷いに対する自分の考え</p>	<p>・各教材ごとに、「深めてもらいたいこと」として、次の内容を示し行為にかかわる迷いについて自分なりの考えをまとめさせる。</p> <p>*運転手の仕事と人の命</p> <p>*稲むらを燃やすことと人の命を助けること</p> <p>*自分の命と人の命</p> <p>・これらについて、次時のグループや全体の話合いの場で互いに深め合っていくことにふれておく。</p>	<p>☆主人公の生き方を通して学んだことを、これまでの自分の生き方と照らして考えることができる。</p> <p>☆主人公の考えや行為について自分の考えを作文することができる。</p>	<p>ワークシート2</p> <p>「深めてもらいたいことについて」</p>
ステップ4	<p>4 次時の学習について話し合う。</p>	<p>・次時は、互いの考えをグループや全体の場で話し合うことを予告し、学習意欲を喚起しておきたい。</p>		